

2015年7月30日

(ご参考)

マツダ株式会社
2016年3月期 第1四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

執行役員 財務担当 財務本部長
藤本 哲也

1. 総括

2016年3月期第1四半期の総括です。

グローバル販売台数は、新型Mazda2/デミオの本格的な台数貢献に加え、新型CX-3のグローバル展開により対前年16%増の37万台です。この5月より新型ロードスターを日本から導入しました。財務実績は、売上高は8,060億円、営業利益は533億円、当期純利益は368億円となりました。販売台数、利益ともに通期計画に対して順調な進捗です。また、トヨタ社と業務提携に向け具体的な業務提携内容を検討することについて基本合意しました。

2. 2016年3月期 第1四半期実績

連結売上高は、対前年14%増の8,060億円となりました。

連結営業利益は533億円と、前年同期に対し31億円減少しました。経常利益は546億円、税引前利益は539億円、当期純利益は368億円です。

為替レートは平均で1ドル121円、1ユーロ134円と、前年に比ベドルで19円の円安、ユーロで6円の円高となりました。

グローバル販売台数は、前年に対し16%増の37万台です。グローバルで販売が本格化した新型Mazda2/デミオの台数貢献に加えて、新型CX-3の導入により販売を拡大しています。地域別では、日本、中国、その他市場で前年に対して大幅な改善となりました。

各マーケットの状況について説明します。

まず日本では対前年44%増の5万7千台の販売となりました。

需要が前年を下回るなかで販売を伸ばし、シェアは対前年で1.8ポイント増加し、5.2%となりました。新型デミオ、新型CX-3の販売は好調に推移しています。また、5月より発売を開始した新型ロードスターは発売1ヵ月で5千台の受注をいただくなど好調な立ち上がりです。

北米では対前年6%増の11万6千台の販売となりました。そのうち、米国は対前年3%増の8万1千台です。CX-5、Mazda6の商品改良モデルが販売を牽引しています。引き続き、正価販売方針を継続しています。メキシコでは、対前年48%増の1万3千台となりました。Mazda3に加えて新型Mazda2の販売が好調で、過去最高の販売台数とシェアを達成しました。

欧州では対前年4%減の5万4千台ですが、ロシアを除く欧州販売は新型Mazda2の台数貢献等により、対前年11%増の4万9千台となりました。ドイツでは対前年1%増の1万4千台、英国では対前年20%増の9千台と堅調に販売を伸ばしています。一方、ロシアでは需要縮小とルーブル安の影響により、対前年57%減の5千台となりました。

中国では、対前年31%増の5万7千台の販売となりました。需要が鈍化するなか、第1四半期は過去最高の販売実績です。Mazda3の販売が好調に推移しており、またCX-5の商品改良モデルの投入を開始、受注も好調に推移しています。

その他市場では対前年22%増の8万6千台の販売となりました。オーストラリアでは対前年17%増の2万8千台で、シェアは9.4%です。CX-5は前期に引き続きSUVセグメントでの販売台数1位を獲得し、また3月に導入した新型CX-3の販売も好調です。ASEANでは需要の回復が遅れているタイやインドネシアの販売減を好調なベトナム等がカバーして対前年17%増加しました。その他市場ではサウジアラビア、コロンビアでの販売が好調で過去最高の販売台数を達成しました。

連結営業利益の前年に対する減少額31億円の主な要因について説明します。

台数・構成ではSKYACTIV搭載車両の販売拡大により、70億円の改善となりました。

為替はUSDで51億円の改善、ユーロで46億円、その他通貨で62億円悪化し、合計で57億円の悪化です。

変動コスト領域ではコスト改善の進捗により65億円改善しました。

販売費用は新型Mazda2や新型CX-3のローンチに伴う広告宣伝費により53億円増加しました。

また、その他固定費領域ではメキシコ工場、タイ新オートマチックトランスミッション工場の減価償却費等の増加により、56億円増加しました。

3. 2016年3月期 見通しおよび主要施策の進捗状況

グローバル販売台数は、上期および通期見通しについて変更はありません。

グローバルで販売が本格化している新型Mazda2や順次主要市場に展開していく新型CX-3や新型ロードスターの台数貢献により、通期計画は期初の公表通り149万台の見通しです。

同じく上期および通期の利益見通しも変更はありません。今後の欧州や中国などの市場環境や新興国通貨などの為替動向を慎重に見極めているところです。

主要施策の進捗状況について説明します。

既存のSKYACTIV商品に、常に最新のデザイン及び先進技術を搭載するなど継続的進化を図っていく方針です。大幅な改良を施したMazda6/アテンザ、CX-5の販売は好調です。新型CX-3の導入は、日本では発売1カ月で受注が1万台を超え、オーストラリアでも好調に推移しています。欧州では6月から導入を開始しており、ドイツなどで順調な滑り出しです。

また、この5月より日本から導入を開始した新型ロードスターも発売1ヶ月で受注が5万台を超えるなど、

多くのお客様から高い評価を頂いています。

今後、米国では7月から、欧州とオーストラリアには8月から順次グローバルに展開していきます。
新型車の投入は計画に沿って順調に進んでおり、SKYACTIV搭載比率は84%まで増加しています。

次に、海外工場の稼働状況について説明します。メキシコ工場では、6月よりトヨタ社向けの小型車の生産を開始しました。また、タイの新オートマチックトランスミッション工場では操業を2直化するなど、立ち上がりは順調です。

最後にトヨタ社との業務提携について説明します。本年5月にトヨタ社と経営資源活用や、商品・技術の補完など、相互にシナジー効果を発揮しうる継続性のある協力関係の構築に向け基本合意しました。現在、両社で組織する検討委員会を立ち上げ、互いに強みを活かせる具体的な業務提携内容の検討を開始しています。この度の業務提携により、従来の提携の枠組みを超えて、「クルマの新たな価値創造」に向けた中長期的な相互協力を目指します。

以上